

社会医療法人 福島厚生会 福島第一病院



所在地：福島県福島市北沢又字成出16番2号
 延床面積：東棟/2,597.72㎡+既存/8,337.49㎡=10,935.21㎡
 構造・規模：RC造一部鉄骨造/東棟[3階+PH階]+既存[4階+PH階]
 施主：社会医療法人 福島厚生会
 設計：株式会社総合計画 東北事務所
 施工：建築/鹿島建設(株)東北支店
 電気/太平電気(株)
 完成：平成24年3月

S199

ハード面・ソフト面とも充実を図り、よりよい医療サービスを提供するために東棟を改築。
 照明は各部門の機能に応じた光源・器具を使い分けし、快適かつ省エネが実現されています。

ホテルのような落ち着いた雰囲気のある地域密着型の東棟を建築整備

内科、外科、心臓血管外科、循環器内科、整形外科、リウマチ科、歯科などの診療科を擁し、ベッド数240床の福島第一病院は、24時間対応の救急告示病院です。長年による老朽化で改築された東棟は、「病院の新しい顔をつくる」を建築コンセプトとし、震災に備える「耐震構造」の建築、地域住民のニーズに対応する「救急部門」の強化、病気を未然に防ぐ「健康管理プラザ」の拡充、社会復帰を応援する「リハビリテーション機能」の強化等を掲げた設計となっています。配置構成は、医療に特化するエリア、保健に特化するエリア、それに厚生エリアの3つに大別されています。

患者・医療スタッフともにストレスを軽減化した光環境と省エネ化が両立

照明設備は、患者にとっては不安を軽減した快適感を、医療スタッフにとってはストレスを和らげた光環境を、かつ省エネ・メンテナンスの軽減とを両立するため、LED照明を主に採用し、間接照明を中心にした照明計画となっています。1階待合ホールの照明は、LEDダウンライトを採用し、床面の明るさだけでなく、天井の一部を折り上げて木目ルーバー天井として間接光風に柔らかい光を形成し、壁面も明るくして昼白色の光色によるさわやかな清潔感のある雰囲気をつくりだしています。

救急診療部門は、医療スタッフの目の疲労の軽減を図るため、手元の明暗が生じないように下面カバー付器具を治療台の両側に配置。2階のリハビリテーション室は、活動的で快活な雰囲気が得られるように光に方向性をもたない埋込スクエアカバー付器具を採用。高照度にならない均一な明るさ(500lx)で眩しさも抑制しています。治療の場であると同時に日常生活空間でもある病室の照明は、ベースを電球色によるコーニス照明でソフトなあかりで包まれた雰囲気とし、ベッド灯にはコンパクト形間接照明ベッドライトを採用。廊下の照明は、患者がストレッチャーで運ばれることを想定して、LEDダウンライトを脇に寄せた配置とし、夜間には全体の照度を減光。不必要な明るさをカットして省エネしながら安全な移動空間を確保しています。



救急処置室の照明 乳白カバー付器具を治療台の両サイドに配置し、患者に眩しさを与えないようにするとともに医療スタッフの目の疲れを軽減



リハビリテーション室の照明 方向性のない埋込スクエアカバー付器具により均一な明るさを確保



検診ホールの照明 LEDダウンライトを一部ルーバー天井内に配置し眩しさを低減。省エネを図りつつ、長寿命によるメンテナンスも軽減



拡散光でやさしい光環境の診察室の照明



ストレッチャー等を配慮し、壁側に寄せたダウンライト



病室の照明 間接光の柔らかい光で包み込み落ち着いた雰囲気を出創



間接光を主としたトイレの照明

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
東棟室内	LED一体形ダウンライト	LEDD-20001MW-LS9	140	LED 消費電力:27W
		LEDD-20001ML-LS9	25	LED 消費電力:27W
		LEDD-15001MW-LS9	18	LED 消費電力:21W
	LEDフラットユニット形ブラケット	LEDB85000-LDF6L-GX53	17	LED 消費電力:6.9W
	LED一体形ベースライトストレートタイプ	LEDR-76021W-LD9	24	LED 消費電力:70W
	蛍光灯間接照明トラフ	FHT-41007-PM9	32	Hf32W蛍光ランプ
	蛍光灯埋込乳白カバー付	FHR-54126K-PN9	19	FHP45W蛍光ランプ×4
		FHR-34126K-PR9	24	Hf32W蛍光ランプ×4